



札幌大学
SAPPORO UNIVERSITY

2026年8月26日

質向上時代の大学評価を再考しよう

学修者本位の教育を実現する大学評価とは？

札幌大学 地域共創教育機構 准教授・学長政策担当部長 荒木俊博
Mail : t-araki@sapporo-u.ac.jp

自己紹介

一般企業→千葉・東京・埼玉にキャンパスがある私立大学を経て、

2025年9月 札幌大学 地域共創教育センター開設準備室 専門

員・特命准教授

2026年4月～ 札幌大学 地域共創教育機構 准教授・学長政策担

当部長

●家族 妻・子供、猫一匹

●出身 埼玉（埼玉→大阪→千葉→埼玉→北海道）

●趣味 ウェイトトレーニング、登山（夏山から冬山、低山から
3000㍔の高山まで）

●資格 一般旅行業務取扱主任者

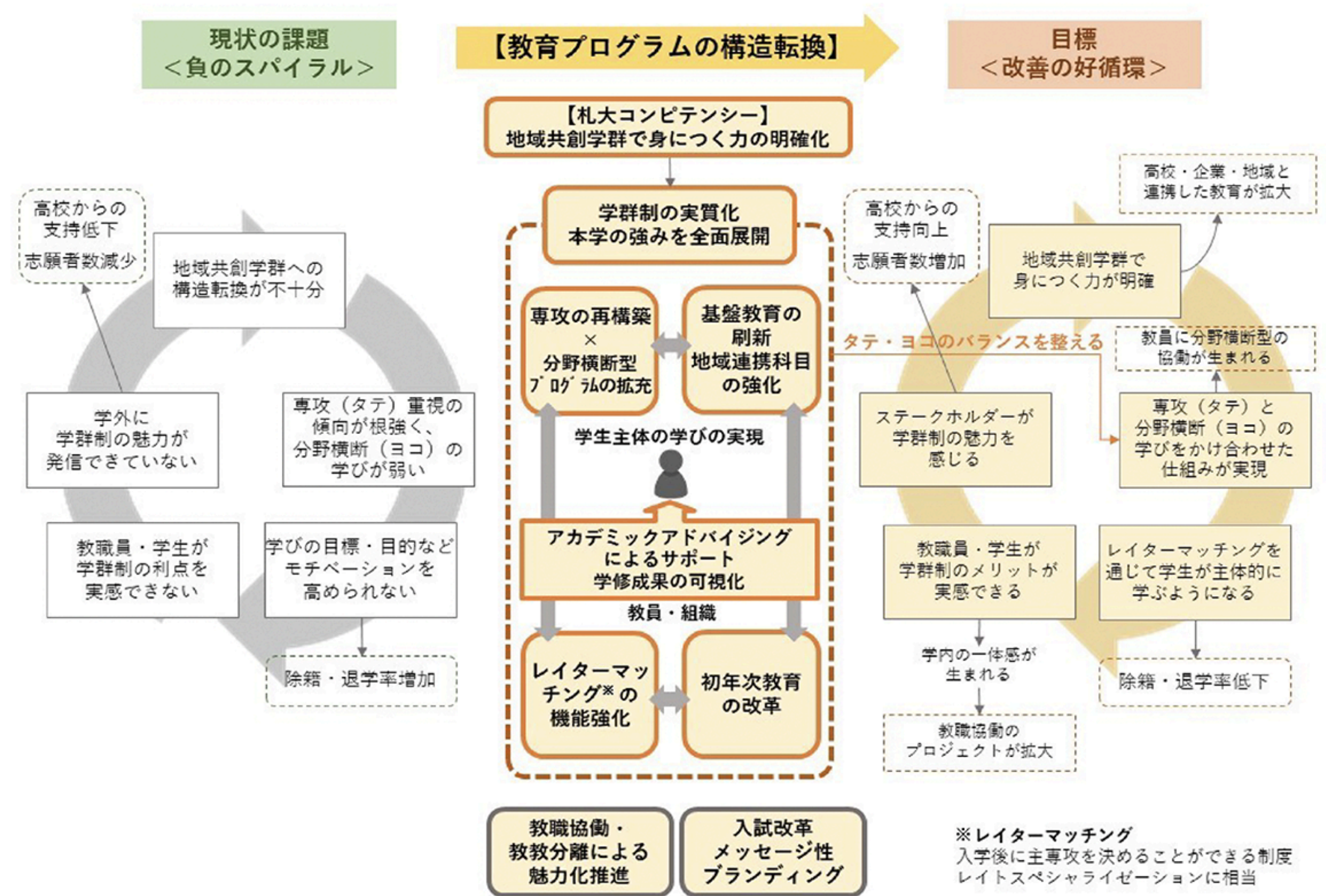
●研究分野 教学マネジメント、内部質保証、大学評価、学生参画

<https://researchmap.jp/toshihiro-a>



【札幌大学で担当している仕事】

- ・ 教学マネジメント
- ・ アカデミック・アドバイザー
- ・ 初年次教育改革
- ・ 地域科目・プログラムの開発
- ・ 学生参画（評価）等



▶ 本日の到達目標

1 5つの言葉の関係を整理できる

自己点検・評価／モニタリング／レビュー／KPI・KGI／中期計画の役割と相互関係を、自分の言葉で説明できる。

2 自学の現在地と課題を抽出できる

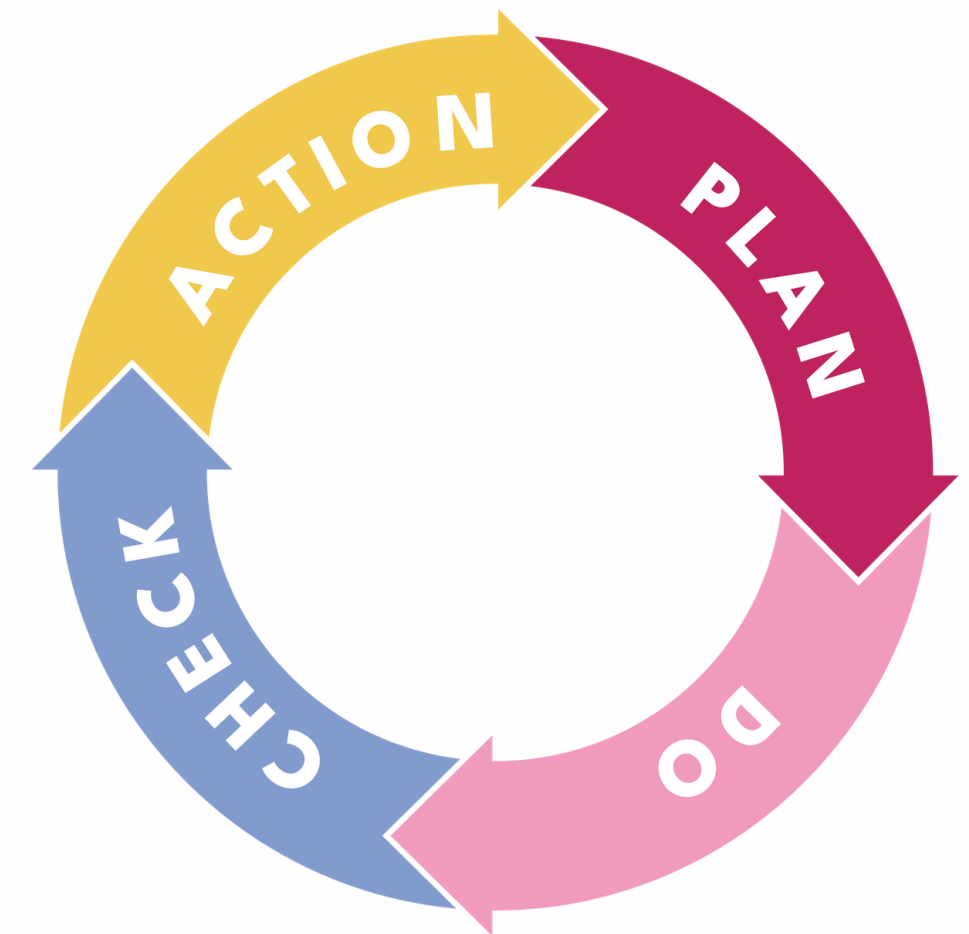
学修者本位の教育という観点から、所属大学の内部質保証・大学評価の現状と課題を、具体的に書き出せる。

3 持ち帰るアイデアを1つ以上得る

他機関の参加者との対話を通じて、明日からの質保証実務の改善に向けた具体的なアイデアを持ち帰る。

質向上に向けた自己点検・評価は 今のままでいいの？

- K P I を設定すれば質向上はする？
- 長の作文だけの自己点検・評価で本当にいいの？
- 自己点検・評価は教育プログラムも評価してる？



▶ 本日のスケジュール

時間	パート	内容
13:00–13:15	オープニング	趣旨説明・チェックイン（自己紹介）
13:15–13:45	インプット①	政策動向：学修者本位の教育と「新たな評価」の方向性
13:45–14:00	ワーク①	個人→グループ共有
14:10–14:10	休憩	10分
14:10–14:45	ワーク②	質向上の仕組みと大学評価を考えよう
14:45–14:55	ギャラリーウォーク	各グループの内容を見て回ろう
14:55–15:00	クロージング	まとめ

▶ グループで共有しよう

- ・ 自己紹介（名前・所属）
- ・ どんな仕事をしているかや
このセッションに参加した理
由など

▶ 評価を再考するうえで

1

第4期機関
別認証評価
(2025年
度～) の焦
点

2

学修者本位
の教育と
「知の総
和」 答申

3

2026年6月
「新たな評
価」 議論の
まとめ

▶ 認証評価のサイクル別の特徴

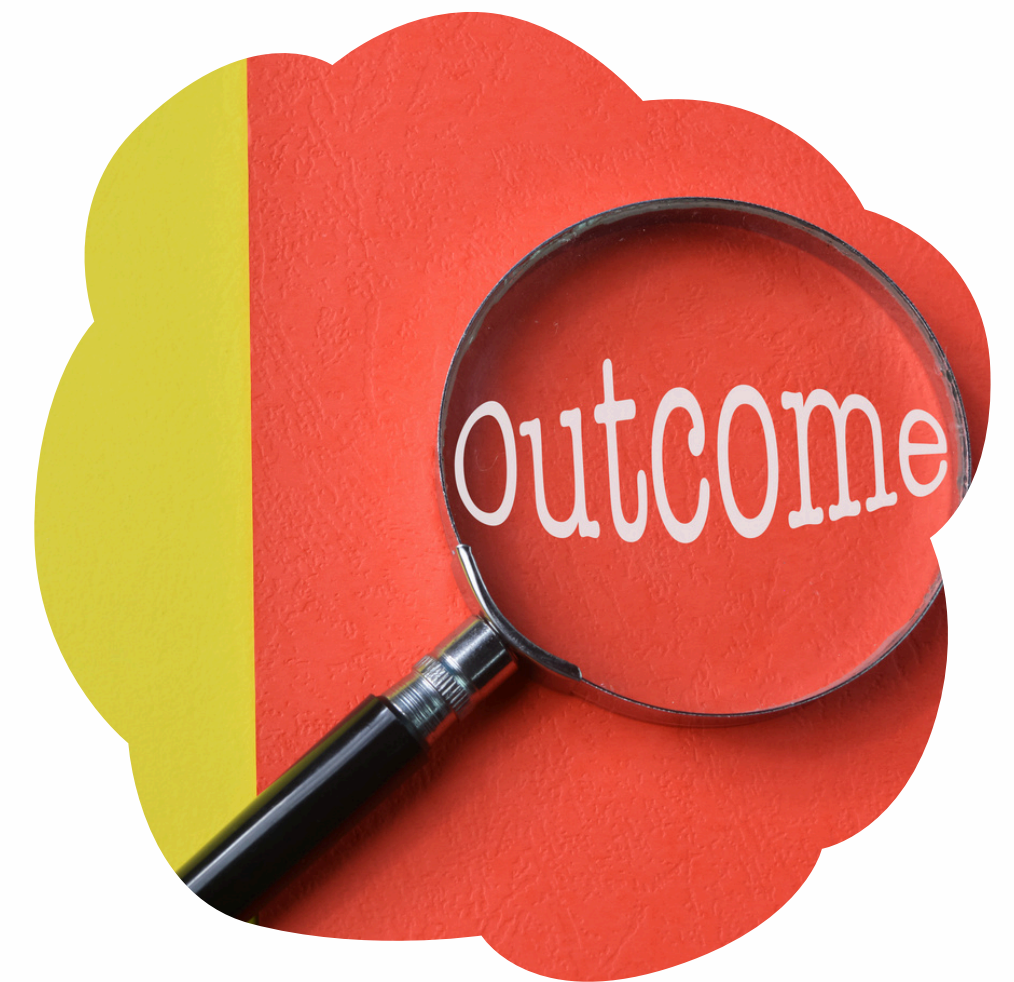
大学基準協会の場合

第1サイクル：認証評価が法的義務の段階。

第2サイクル：内部質保証の重視、その構築を促す段階。

第3サイクル：内部質保証を大学に徹底浸透させ、実質化をはかる段階。

第4サイクル：学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価



出典：工藤潤（2014）「今後の認証評価のあるべき方向性」私学高等教育研究所シリーズ（研究報告）No.54より
大学基準協会評価説明会資料（2024年4月22日開催）

▶ 第4期認証評価

評価の視点は、インプット・プロセスから、アウトプット・アウトカムが重要！

インプット

教員数・施設・規程の整備

プロセス

会議体・手続の運用状況

アウトカム

学生が何を身に付けたか



評価される「有効性」の実例

教学マネジメント室が毎年行う点検・評価（＝モニタリング）と、各学位プログラムとの対話・学生からの意見収集（＝プログラムレビュー）を組み合わせた運用が、内部質保証の有効性確保の事例として評価されている。

▶ 近年の高等教育政策流れ

2018

2020

2025

2030 ?



グラント
デザイン答申

教学マネジ
メント指針

「知の総和」
答申

新たな評価
(予定)

学修者本位への転換

FD・SDは「基盤」

質・規模・アクセス

DP起点・4段階

近年は学修者本位の教育と大学の生き残り戦略が具体化

学修者本位の教育のよくある誤解

学生が好き勝手に
履修すればよい



▶ 学修者本位の教育ではないとは？

- 学修の目標が具体的に定まっていない。どこに向かって学修するのか、教育するのか、わからない。
- 個々の教員が教えたい授業をしている。学修者の知的習熟課程が考慮されていない。
- 学修者が成長していない、学修の成果も出ていない。あるいは成長してるか、成果が出ているかわからない。
- 教職員が学修者のことを考えていない。学修者の成長を可視化できる人材がいない。
- 学修者が自ら学んで身に付けたことを社会に説明できない。大学もその情報を公表していない。

▶ 知の総和答申概略

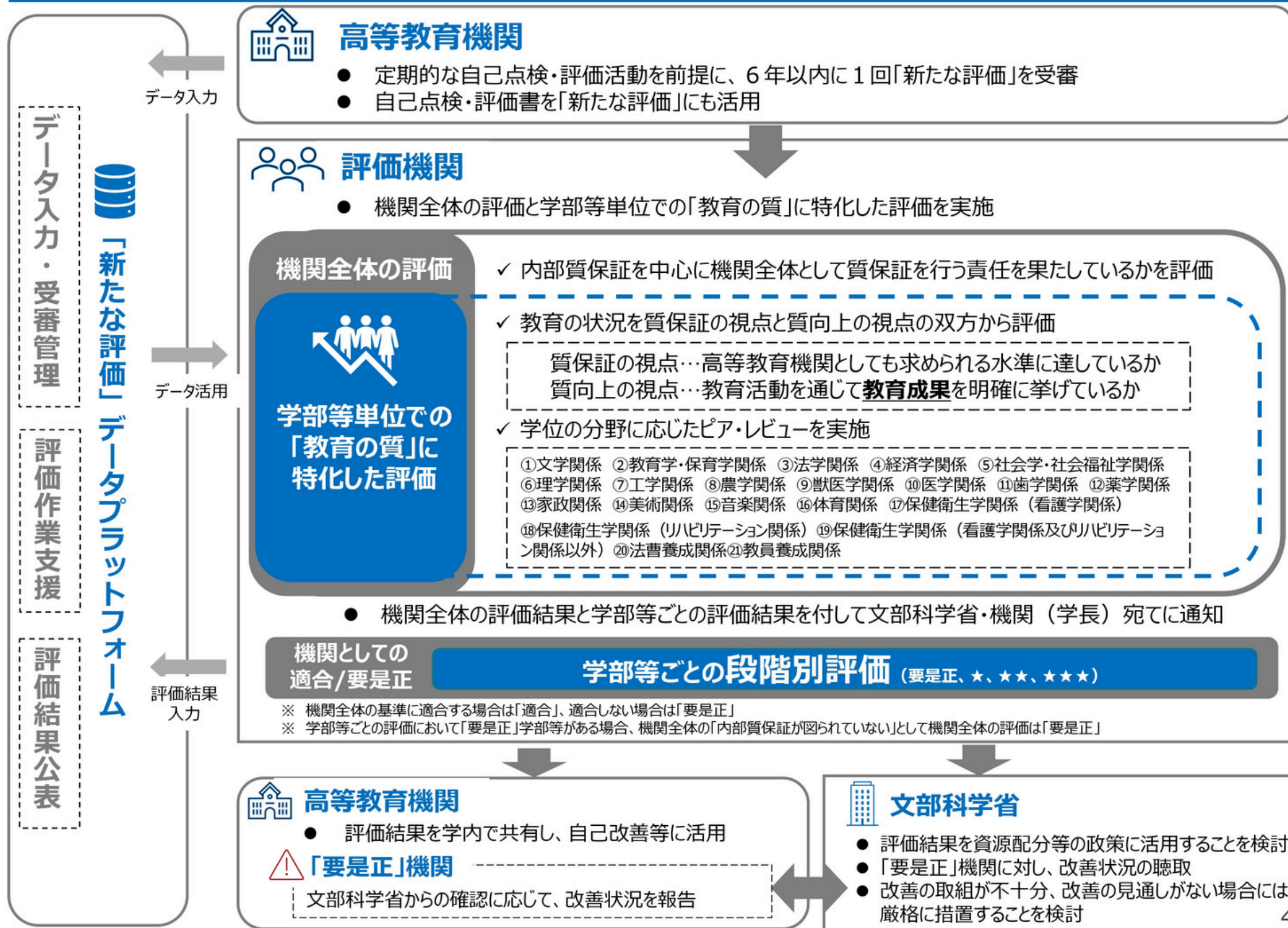
我が国の「知の総和」向上の未来像

～高等教育システムの再構築～ （答申）より

- ・ 現在はユニバーサル段階。
- ・ 育成する人材は持続可能な活力ある社会の担い手や創り手として、真に人が果たすべきことを果たせる力を備え、人々と協働しながら、課題を発見し解決に導く、学び続ける人材。
- ・ 高等教育機関においては、学生の満足度を高め、成長が得られるよう教育研究活動を高度化していくとともに、それぞれの強みや役割を生かした活動を行いつつ、得られた教育研究の成果や効果について社会に対して情報公表を続けていくことが求められる。

新しい評価

「新たな評価」の概略



【新しい評価のフロー】

①大学全体（内部質保証の評価

②学部等の評価（質保証の水
準）

③学部等の評価（質向上）

大学全体の評価をまずクリアす
ることが重要！

全ての学部が一定以上の評価が
必要

》 質保証と質向上

① 質保証の視点

法令等で求められる教育活動の水準に達しているか

- ・ 全評価機関が同一基準
- ・ 4つの基本的な方針
- ・ 7つの評価基準／15の評価項目
- ・ 満たさなければ「要是正」

② 質向上の視点

学生一人一人の能力を最大限高め、教育成果を明確に挙げているか

- ・ DPに定める資質・能力を備えた学生を育成できているか
- ・ 直接評価と間接評価の双方で可視化
- ・ 優れた取組を積極的に評価

➤ 認証評価から新たな評価へ

論点	これまでの認証評価	「新たな評価」の方向性
評価対象	機関全体	機関全体＋学部等（学位分野単位）
評価の視点	内部質保証システムの有無と運用	質保証の視点＋質向上の視点（教育成果）
評価結果	適合／不適合	要是正＋3段階（絶対評価）
サイクル	機関別7年／分野別5年	6年（統合）
データ	各機関が個別に提出	データプラットフォームで一元管理
公表	評価機関ごとの報告書	統一フォーマットで一元公表・Univ-map

▶ 自己点検・評価はどのように、何に基づいて実施している？ 質向上に寄与してる？

- 【方法】 表形式・記述形式
- 【軸】 独自ビジョンや指標、独自KPIやKGI、独自の評価の視点、機関別認証評価の評価の観点
- 【時期】 毎年実施、数年おきに実施
- 質向上が読み取れるか、寄与しているか

T H A N K

Y O